瑞穂中学校だより

【学校教育目標：ふるさとを愛し
心身ともにたくましく 主体的に学ぶ生徒の育成】

令和6年2月7日（水） NO. 30 文責：校長 柏原 哲郎
HP アドレス https://www.unzen.ed.jp/mizuhochu

みんなの思いを１つにして

元日に発生した「令和6年能登半島地震」の犠牲者、被災者等の少しでも力になればと言う思いで生徒会が提案し、募金活動を行いました。育友会を通した保護者の協力もあり、「104，362円」の義援金を集めることができました。本当にありがとうございました。この活動を通して生徒一人ひとりに被災者等に対する思いやりの心や今回の震災を通して「気づき、考え、行動する」力が、改めて育まれたのではないかと思います。そういったみんなの思いが１つになり、被災地に届くことでしょう。

なお、今回集まった義援金は十八親和銀行様を通して「令和6年能登半島地震に係る長崎県災害義援金」に加えていただくことになりました。先日１／25に、生徒会長の中峰紗英さんが十八親和銀行の行員さんにしっかりと手渡しました。

頑張りは続く

これまでも生徒の頑張りを紹介しましたが、それ以降も引き続き頑張りが続いていますので、紹介します。

○ 令和5年度第23回全国中学生創造ものづくり教育フェア
生徒作品コンクール長崎県代表作品選考会
優秀賞 2年 塩塚 和人くん 三浦 龍斗くん

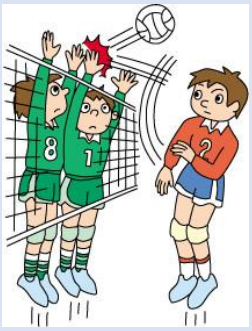
○ 令和5年度第4回長崎県郡市町対抗選抜団体ソフトテニス大会（１／8）
第3位 男子雲仙市選抜チーム（森田 侑希くん、益田 陵汰くん、川﨑 雄斗くん、川井 亮輔くん
※川井くんは選抜されましたがケガのため残念ながら出場できませんでした）

○ 雲仙市中学生ソフトテニス春季大会（１／27，28）

男子団体 準優勝 男子個人 準優勝 森田 侑希・益田 陵汰ペア
※2人は3月に開催される県大会に出場します。
女子団体 準優勝 女子個人は残念ながら全ペア予選リーグを勝ち上がることができませんでした。

○ 令和5年度長崎県中学校バスケットボール競技新人大会（１／27）
県大会という檜舞台に立った男子バスケットボール部（愛野中１名と合同チーム）は長崎市代表の強豪緑が丘中学校と対戦しました。大きな壁に弾き飛ばされる結果になりましたが、この経験が経験で終わらずに、経験を活かし次の成長したチームになることを願っています。きっと悔しさをバネにしてくれるものと期待しているところです。

○ 令和5年度長崎県中学校バレーボール競技新人大会（2／3，4）



本校女子バレーボール部（吾妻中2名と合同チーム）は、大村市立玖島中学校と対戦しました。結果的に競り負けて0−2で敗れてしまいました。競り負けた原因をしっかりと見つめ、その上で必要な力を付けていってほしいと思います。

男子バレーボール部の部員が所属する地域クラブのVC雲仙は、決勝まで勝ち上がり、決勝では吾妻中を2−0で下し、見事に優勝を飾りました。3月に福岡で開催される九州大会の出場を決めました。おめでとう!!

○ 令和5年度長崎県中学校サッカー競技新人大会（2／4）

本校サッカー部（国見中4名と合同チーム）は初戦の平戸市の地域クラブチームを5−1で、さらに準々決勝では長崎市立土井首中学校を1−0で下し、昨年の本大会のベスト8を上回るベスト4に進出し、九州大会出場の権利を獲得しました。

今週末の2／10（土）に準決勝、決勝があります。その結果を楽しみにしたいと思います。なお、会場は諫早市サッカー広場（久山人工芝）で、9：30試合開始です。

令和6年度新入生入学説明会（1／25）

今後転出入等で多少±があるかもしれませんが、現段階で令和6年度の新入生の数は合計42名です。その児童及び保護者の方に入学に当たっての標記説明会を行いました。会場が体育館ということで、防寒のために学校中のストーブ等（5 台）を集めて迎えました。

校長からは、「中学校は小学校の学びを土台としてさらに世界が広がる、可能性が広がる、そんな場所です。」という話をしました。ほんの1例として、数学における数の世界の広がりを紹介しました。児童のみなさんは真剣に話を聞き、質問にもしっかりと答えてくれました。その姿に嬉しくなると共に楽しみが大きくなりました。

その後、本校教務主任の近河教諭より中学校の具体的な生活等の説明がありました。特にその場では児童からも保護者の方からも質問はありませんでしたが、今後その準備の中で質問等があれば気兼ねなく学校に連絡していただければと思います。

中学校からの説明終了後、雲仙市教育委員会生涯学習課主催の「メディア・家庭教育研修」がありました。講師は長崎県メディア安全指導員加納　文さんで、そのタイトルは『デジタルデトックスで子どもの未来が大きく変わる！ ～親子の会話が子どもの健やかな成長を支える～』というものでした。次のような問いかけや話がありました。 ※デジタルデトックス＝SNSやスマートフォン、コンピューターといったデジタル機器の使用を自発的に控えていくこと。また、その期間の事である。

○ 基本的生活習慣は身に付いていますか？

○ メディア漬けの生活になっていませんか？

○ 中学校生活を心も体も元気に過ごすためには『睡眠と食事』はとても重要です。

○ 親子のコミにケーション。

・『自分は（我が子は大丈夫）』はありえない。

・『やっていいこと、わるいこと』（自分でしっかり考える訓練を日ごろから）。

○ 1日24時間の使い方を振り返ってみよう！

○ デジタルデトックス、親子でルール作り。

① 24時間の過ごし方を、子どもと一緒に書き出してみよう。

② マイルールを決める「子どもに決めさせる」。

③ ルールの見直しは何回でも。その都度、子どもと話し合いながら。